

## 第1回（公社）日本鍼灸師会 臨床鍼灸スポーツ・フォーラム 参加後記

真冬の晴天の下、2月13日（日）に名古屋国際会議場で日本鍼灸師会主催の第1回スポーツ・フォーラムが開催された。参加人数は、129名。この数字は、日鍼会の全国大会としては、すこし少ない気がするが、学術局長の小松秀人氏が言われるように「より質の高い鍼灸医療の専門性を提供できる臨床鍼灸師の研修を行うことを目的としての第一歩。大会を開催できたことに意味がある。」と。そう、このスポーツ・フォーラムは、日本鍼灸師会の新たな事業。まず、最初の一步を示したことが大切なのである。「スポーツ鍼灸」という確立された分野だけに、今後、参加者が、増えてくるという期待がもてる。また、今回は、もう一つ明るい材料があった。それは、記念すべき第1回の全国大会が、この名古屋の地で行われたということ。中京は、全国からのアクセスのいい土地柄。近い将来、「鍼灸の全国大会」が名古屋近郊で開催される可能性は高い。これから名古屋が楽しみになる。

さて、肝心のフォーラムの内容であるが、最新のスポーツ活動報告あり、講演あり、実技ありの充実したプログラムであった。以下、詳細を記す。

### 【午前】AM10:30~12:00

#### （一般講演）

- ・スポーツ障害の経絡的治療 日比 泰広（滋賀県）  
～VAMFITによる脛骨過労性骨障害（シンスプリント）の治療を例として～
- ・高校サッカー部トレーナー活動とスポーツ鍼灸の実際 粒来 和正（福島県）
- ・ランナーにおける足根洞症候群の1症例 元吉 正幸（千葉県）

### 【午後】PM1:30~3:10

（特別講演） 老いない体をつくる 中京大学大学院 体育学研究科教授、学部長  
～運動・治す・防ぐ・若返る～ 湯浅 景元

#### （シンポジウム）全国各師会ボランティア活動報告

- ・東京マラソン2010 ボランティア活動報告 岩元 健朗（東京都）  
～ランツボ・はりケアステーション～
- ・鍼灸師としてのボランティア 飯塚 季也（滋賀県）  
～マスターズ大会・男子バレーボールを経て～
- ・神戸全日本女子ハーフマラソン大会の参加について 吉田 克典（兵庫県）

・岡山県の障害者スポーツにおける取り組み 大町 成人（岡山県）  
～岡山県スポーツ鍼トレーナー協会の活動報告～

・平成 22 年 ゆめ半島千葉国体のサポート報告 元吉 正幸（千葉県）

（教育講演） スポーツ障害における動作解析と鍼灸臨床 学術局長 小松秀人



一般講演は、すべて実技があり、講師が解説をしながらのデモンストレーションは、たいへんわかりやすかった。ただ、もう少し、手指を写すライトが明るいと画面が見やすかったのではないかと。機材の関係で大変だと思うが、この点、今後の課題である。

特別公演「老いない体をつくる」。講師の湯浅景元教授は、フィギュア・スケート浅田真央さんやハンマー投げの室伏広治さんなど有名人の身体のケアをしているということであった。講演の内容は、脳、心臓（血管）、骨、筋肉など身体全般の“体力維持”について実技を交えながらわかりやすく解説していただいた。脳トレには、書きものやジャンケンがよいこと。また、脳は、慣れると使われなくなるという特性から、趣味は、長く続けるもの

と、短期間で変えていくものと、二つ持つのがいいこと。そして、運動は、「やりすぎても、しないのもいけない。」「適量が大切。」と。椅子に腰かけたままの足上げや背伸ばしを紹介された。運動の時間は、5~7秒ほどで、思っていた以上に短い時間でよいとのことであった。「老いない体をつくる」(平凡社新書)、「なりきり歌舞伎体操」(ポプラ社)、「いつでもできる簡単エクササイズ」(岩波書店)、「和でエクササイズ」(岩波書店)など湯浅氏の著書がいくつか出ているので、興味のある方は、そちらを参考にさせていただきたい。

続いてのシンポジウムでは、全国の師会スポーツ・ボランティアの報告があった。治療指針(刺激量、時間)やアンケート内容、ブースの流れなど参考にできる点がいくつもあった。そして何より、全国でこうした鍼灸スポーツ・ボランティアが積極的におこなわれていることに強い刺激を受けた。受講者のモチベーションを上げる、いい企画であったと思う。

最後に大会の締めを飾る、小松学術局長の教育講演「スポーツ障害における動作解析と鍼灸臨床」について。講演で紹介された、動作解析ソフトを使った画像診断は、客観性があり、たいへん興味深い検査法と感じた。今後の症例蓄積が楽しみである。

大会終了後の懇親会で長野県の今村和久氏が言われた言葉が耳に残っている。それは、「スポーツ鍼灸というのは、我々の先輩が官庁などに何度も掛け合い、苦勞して確立した領域である。本フォーラムは、その領域をこれから発展させる大会であるが、土台となった先人の苦勞を忘れないで欲しい。」と。先輩を尊ぶ精神。この気持ちを忘れては、いけないと思う。スポーツ・フォーラムの今後の発展を期待している。